

第4章 5つの施策目標の実現と点検・見直し

1 5つの施策目標の実現 ～前期5箇年の実施計画の策定・推進～

「京（みやこ）の水ビジョン」に掲げた5つの施策目標の実現に向けた前期5箇年の具体的な実施計画として、「京都市上下水道事業 中期経営プラン（2008-2012）」を併せて策定しました。このプランは、事業推進のための具体的な年次計画である「事業推進計画」、業務を効率化し企業改革を推進する「第4期効率化推進計画」、財政健全化目標や財政効果を示す「財政健全化計画」の3つの計画で構成されています。

さらに、各事業の1年間の具体的な目標を設定し、定期的な進行管理を行うため、「京都市上下水道局運営方針」を毎年度策定することにより、年々の情勢の変化にも対応できるよう努めていきます。

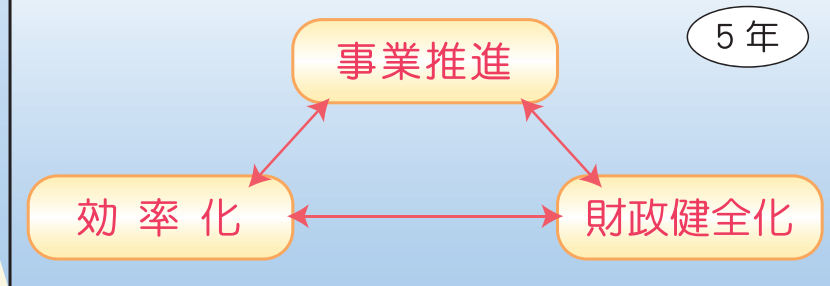
これらに基づき、着実にプランを推進することにより、「京（みやこ）の水ビジョン」の5つの施策目標の実現を目指します。

京都市上下水道経営戦略



前期5箇年の実施計画

京都市上下水道事業 中期経営プラン（2008-2012）



2 ビジョンの点検・見直し ～後期5箇年の実施計画の策定に向けて～

上下水道局では、これまでから各年度の事業の進ちょく状況を定期的に把握し、それらの内容をホームページ等で公表することにより、市民の皆さまへの情報提供に努めてきました。

また、「京都市上下水道事業経営評価」として、公営企業の特性に応じた評価を実施し、評価結果に基づく計画の見直しを繰り返すことにより、事業の継続的改善に取り組み、PDCAサイクル（Plan-Do-Check-Action）の確立に努めてきました。

今後も、「京都市上下水道局運営方針」に掲げた各年度の事業推進目標に基づく前期5箇年のプランの進行管理と点検・評価を行いながら、毎年の事業の継続的な改善に努めていきます。さらに、このプランの計画期間満了（5年後）に向けて、その時点での「京（みやこ）の水ビジョン」の達成状況を中間的に点検・評価し、その結果を後期5箇年の実施計画である次期プランの策定に生かしていきます。また、ビジョンの満了時（10年後）には、次期ビジョンの策定に向けた現行ビジョンの最終的な点検・評価を行うこととなります。

これらのビジョンの点検・評価の手法については、将来の評価手法の動向にも左右されるため、現時点で明確なことを示すことはできませんが、例えば、ビジョンに掲げた数値目標（下記参照）の達成分析や、アンケート調査等による市民満足度の把握など、さまざまな観点から総合的に分析することが望ましいと考えています。

3 22の重点推進施策に係る数値目標一覧

業 務 指 標	指 標 の 持 つ 意 味 (算 出 式)	現 状 平成19年度	目 標 平成29年度
I - 1 有収率※ (P.22)	年間の給水量に対する料金収入の対象となる水量(有収水量※)の割合。高い方が良い。 (算出式) 有収水量／給水量	86.0% ⇒	90%
I - 2 高度浄水処理※された 水道水の給水割合 (P.24)	年間の給水量のうち高度浄水処理された給水量の割合。高い方がより広く給水されていることになる。 (算出式) 高度浄水処理された給水量 ／給水量	0% ⇒	50%
I - 3 道路部分の鉛製給水管の割合 (P.26)	給水管のうち、道路部分に鉛製の給水管を使用している件数の割合。低い方が良い。 (算出式) 道路部分の鉛製給水管の使用件数／給水件数	32% ⇒	0%
I - 4 雨水整備率 (10年確率降雨対応) (P.28)	雨水整備の計画面積に対する浸水対策済みの面積割合。高い方が良い。 (算出式) 浸水対策済区域面積／ 公共下水道事業認可区域面積	15.1% ⇒	40%

注) 水道事業に関する指標, 下水道事業に関する指標

(次ページに続く)

業 務 指 標	指 標 の 持 つ 意 味 (算 出 式)	現 状 平成19年度	目 標 平成29年度
I－5，Ⅲ－3 管路の耐震化率 (水道) (P.30, P.48)	耐震化された水道管路の割合。高い方が良い。 (算出式) 耐震管の延長／管路の総延長	6.5% ⇒	14%
I－5，Ⅲ－3 経年管（戦前に布設した管路）対策率 (下水道) (P.30, P.48)	経年管対策された下水道管路の割合。高い方が良い。 (算出式) 経年管対策済管路の延長 ／戦前に布設した管路の総延長	68.0% ⇒	89%
I－5 施設（建築）の耐震化率（下水道） (P.30)	耐震化された下水道施設（建築）の割合。高い方が良い。 (算出式) 耐震化済建築物の数 ／主要な建築物の数	58.1% ⇒	96%
Ⅱ－1 高度処理※人口普及率 (下水道) (P.34)	高度処理の普及割合。高い方が良い。 (算出式) 高度処理実施区域内人口 ／高度処理が必要な区域の人口	45.9% ⇒	55%
Ⅱ－1 窒素高度処理率 (下水道) (P.34)	窒素除去の高度処理の割合。高い方が良い。 (算出式) 窒素除去能力／全処理能力	14.1% ⇒	30%
Ⅱ－2 合流式下水道改善率 (P.36)	合流式下水道の改善割合。高い方が良い。 (算出式) 合流式下水道改善済面積 ／合流式区域面積	25.2% ⇒	70%
Ⅱ－2 雨水吐改善率 (P.36)	雨水吐の改善割合。高い方が良い。 (算出式) 改善した雨水吐数 ／雨水吐の総数	7.0% ⇒	90%
Ⅱ－3 下水道人口普及率 (P.38)	下水道の普及割合。高い方が良い。 (算出式) 処理区域人口／全市人口	99.1% ⇒	99.5%
Ⅲ－1 浄水施設最大稼働率※ (P.42)	1日当たりの浄水処理能力に対する1日最大給水量の割合。高い方がより効率的 (算出式) 1日最大給水量 ／1日当たり浄水処理能力	65.7% ⇒	81%
Ⅲ－3 強度の劣る铸铁管の残存割合 (P.48)	配水管のうち、強度の劣る铸铁管の残存する割合。低い方が良い。 (算出式) 铸铁管残存延長／配水管延長	0.7% ⇒	0% (平成24年度)

注) 水道事業に関する指標, 下水道事業に関する指標